



没後50年記念
色絵磁器を極めた人間国宝
その技とデザイン

加藤 土師 萌

Kato Hajime



【展覧会概要】

加藤土師萌（かとうはじめ・1900-68）は、富本憲吉と並んで色絵磁器の陶芸家として広く知られています。1900年、愛知県瀬戸に生まれて地元で図案を学んだ後、多治見の岐阜県陶磁器試験場に迎えられ、さらには横浜の日吉に窯を築き、陶芸家として独立しました。1955年には東京芸術大学教授となって教鞭を執るかたわら、苦心の末に中国色絵磁器のなかでも最も難しいとされた「黄地紅彩」や「萌葱金欄手」などを再現し、1961年に色絵磁器で人間国宝に認定されています。晩年、皇居新宮殿におさめる萌葱金欄手菊文蓋付大飾壺の制作に没頭し、完成間近の1968年に他界しました。

本展覧会は、加藤土師萌の没後50年を記念し、初期の岐阜県陶磁器試験場で制作された作品をはじめ、その後の横浜時代に手掛けられた多彩な技法による作品、海外を訪れた際の街並みや陶磁器を描いたスケッチなどによって、幅広い創作活動を紹介します。

【基本情報】

◆名称	没後50年記念 加藤土師萌展 色絵磁器を極めた人間国宝 その技とデザイン		
◆会場	岐阜県現代陶芸美術館 ギャラリーⅠ、Ⅱ		
◆会期	2018年9月8日（土）～11月4日（日） *会期中に一部展示替えを行います。		
◆休館日	月曜日（ただし9月17日、24日、10月4日は開館）、9月18日、10月9日 *加藤土師萌命日の9月25日（火）は特別開館		
◆開館時間	午前10時～午後6時 （入館は午後5時30分まで）		
◆観覧料	一般900円（800円）、大学生700円（600円）、高校生以下無料 *（）内は20名以上の団体料金 *障がい者手帳をお持ちの方および付き添いの方1名まで無料		
◆主催	岐阜県現代陶芸美術館	◆企画協力	神奈川新聞社
◆共賛	加藤智子氏	◆助成	公益財団法人 とうしん地域振興協力基金
◆特別協力	東京国立近代美術館		

【展覧会のみどころ】

・加藤土師萌の初期から晩年の作品が集結！

加藤土師萌は、生誕地の瀬戸、岐阜県陶磁器試験場に迎えられた多治見、陶芸家として独立し、人間国宝となる横浜の各地で制作をおこなっています。本展では、それぞれの地で作られた作品について、その変遷をたどりながら紹介します。

・およそ90年ぶりに里帰り！

加藤土師萌の傑作の一つ、《葱文大皿》。岐阜県陶磁器試験場に勤務していた昭和5年（1930）開催の第11回帝国美術院展に出品して入選し、会場を訪れていた秩父宮雍仁（やすひと）親王が自ら選ばれ、買い上げられたものです。長らく静岡・御殿場の別邸に飾られ、殿下が亡くなられたのちは昭和天皇に献納されて御物となり、現在は宮内庁三の丸尚蔵館の所蔵となっています。このたび、およそ90年ぶりに岐阜へ里帰りします。

・抜群の画力！加藤土師萌のスケッチ

加藤土師萌は旅行に出かけた折には必ず、時間さえあればスケッチをしていたと言われています。今回、大量に残されていた陶磁器をはじめ街並みや人物、植物を描いたスケッチのなかから、選りすぐりを出品します。

・関連展示も充実！

関連展示としてギャラリーⅡでは、加藤土師萌が商品化に関わった精炆器（せいせつき）や、岐阜県陶磁器試験場で薫陶を受けた人たちの作品も紹介します。加藤の量産品に対するデザインや後進の育成など、メイン展示とは異なる角度からアプローチします。

【展覧会を知るキーワード】

#黄地紅彩（おうじこうさい） 中国の明時代・嘉靖年間の景德鎮窯で作られていたもので、加藤土師萌が昭和26年（1951）頃再現に成功している。器面全体に黄地を施した上から赤の彩色によって文様とする。

#萌葱金欄手（もえぎまんらんで） 中国の明代・嘉靖年間の景德鎮窯で最も発達した磁器。加藤土師萌は昭和30年（1955）頃再現に成功している。白磁に緑釉を施して焼成した後、金箔を文様の形に切って焼き付けている。

#岐阜県陶磁器試験場（ぎふけんとうじましけんじょう） 大正13年に設立した陶磁器の試験研究機関で、初代場長は井深捨吉（いぶかすてきち）。当時の美濃焼は粗製乱造といった問題を抱えており、デザイン改良のために井深の要請で加藤土師萌はこの試験場に大正15年（1926）迎えられた。ここで加藤は美濃焼のデザイン改良に取り組み、大きな成果を残した。現在の岐阜県セラミックス研究所。

【関連イベント】

会期中は、展覧会をより楽しんでいただくためのさまざまなイベントを企画しています。

記念講演 「試験場と加藤土師萌」

9月23日（日） 14:00 - 15:30

講師：加藤孝造氏（陶芸家・重要無形文化財「瀬戸黒」保持者）

会場：美術館プロジェクトルーム

定員50名（先着順）＊聴講無料、要事前申込

ワークショップ 「精炆器（せいせつき）をつくろう！」

10月21日（日） 14:00 - 16:00

指導：精炆器研究会

会場：美術館プロジェクトルーム

参加費500円 定員20名 ＊要事前申込

ワークショップ 「加藤土師萌の器で楽しむ煎茶」

9月24日（月・祝） 14:00 - 15:30

席主：加藤景友氏（煎茶道薫風流家元）

会場：セラミックパーク MINO 茶室

参加費500円 定員20名 ＊要事前申込

8mm フィルム&スライド鑑賞

10月27日（土） 14:00 - 15:30

加藤土師萌が海外等で撮影した映像を当館担当学芸員が解説

＊参加無料、事前申込不要

特別開館

9月25日（火）

加藤土師萌の命日にあたるこの日、通常は休館日ですが特別開館します。

ギャラリートーク

9月16日（日）、10月20日（土） 14:00 - 15:00

当館担当学芸員による展示解説

＊要観覧券

※詳しくは当館 HP もご覧ください。

FAX : 0572-28-3101

担当：立花・水野

読者用プレゼントチケット(5組10名様分)を希望します。*希望される方はチェックをいれてください。

『没後50年記念 加藤土師萌展 色絵磁器を極めた人間国宝 その技とデザイン』の広報用写真(データ)を希望される方は、本用紙に必要事項をご記入の上、上記FAX番号までお申し込みください。ご希望の写真にチェックをいれてください。



《月下弹琴之図赤絵大皿》
1943年
東京国立博物館蔵



《指描澤瀉文大皿》
1936年
岐阜県セラミックス研究所蔵



《黄地紅彩蜂葡萄文角皿》
1954年頃
岐阜県現代陶芸美術館蔵



《色絵染付金欄手迎春花文喰籠》
1967年
個人蔵



《磁器瑞鳳香爐》
1933年
個人蔵



《萌葱金欄手丸筥》
1958年
東京国立近代美術館蔵

貴社名 (ご担当者)

ご住所 〒

お電話 FAX

E-mail

掲載媒体名

題目 記載予定日

備考

- 写真・画像のご使用は本展覧会をご紹介いただける場合に限らせていただきます。
- 使用される場合は、上記キャプションをご明記ください。
- デジタル画像は全てjpgです。ご送付の手段については原則としてメール送信(画像サイズは1点300~500KB程度)となります。
- 大きなサイズの画像をご入用の場合は、担当までご連絡ください。
- 内容確認のため、校正原稿をお送りください。
- ご掲載紙・誌を1部当館までご送付いただければ幸いに存じます。